

22農病防第7438-1号  
平成22年4月28日

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長  
(公印省略)

平成22年度 病害虫発生予察注意報第1号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成22年度 病害虫発生予察注意報 第1号

1. 病害虫名 : **ニンニク春腐病**
2. 対象作物 : ニンニク
3. 発生が予想される地域 : 県下全域
4. 発生程度 : **多**
5. 注意報発表の根拠
  - 1) 3月下旬の発生圃場率及び発病株率は平年並であったが、4月中旬以降は日照時間が少なく、断続的な降雨が続いたことから、4月下旬の発生圃場率及び発病株率が急増した。
  - 2) 4月下旬の発生圃場率及び発病株率は、ともに過去6年間で最も高かった(第1表)。
  - 3) 曇雨天の日が続くと健全株への感染が助長され、さらに蔓延するおそれがある。

第1表 ニンニクにおける春腐病の発生状況

発生圃場率(%)				発生圃場の発病株率(%)			
年次	2月下旬	3月下旬	4月下旬	年次	2月下旬	3月下旬	4月下旬
2004	8.3	25.0	92.3	2004	0.5	1.0	1.7
2005	7.7	8.3	25.0	2005	0.5	1.0	0.7
2006	0	11.1	38.9	2006	0	0.6	1.7
2007	5.6	7.7	17.6	2007	0.5	0.1	0.7
2008	0	0	33.3	2008	0	0	1.0
2009	5.6	38.9	33.3	2009	0.1	3.6	1.2
平年	4.5	15.2	40.1	平年	0.3	1.1	1.2
2010	0	10.5	93.8	2010	0	1.3	7.9

6. 防除対策

- 1) 発生圃場では、次の薬剤を7~10日間隔で散布する。湿潤な天候が続く、急増が予想される場合には、抗生物質剤を主体に5~7日間隔で防除を実施する。散布回数が多くなることから、各薬剤の使用回数及び収穫前日数を遵守する(第2表)。
- 2) 伝染源となる腐敗株を早期に抜取り、適正に処分する。
- 3) 排水不良は発病を助長するので、明渠などによって排水対策を徹底する。

第2表 ニンニク春腐病の防除薬剤

薬剤名	農薬の種類	希釈倍数	使用時期/回数	備考
アグリマイシン-100	抗生物質剤	1,000倍	収穫7日前/3回	
バリダシン液剤5	抗生物質剤	800倍	収穫7日前/5回	
カスミンボルドー	抗生物質+無機銅剤	1,000倍	収穫7日前/5回	
カッパーシン水和剤	抗生物質+無機銅剤	1,000倍	収穫7日前/5回	
キンセツ水和剤80	有機銅+無機銅剤	1,000倍	収穫7日前/5回	
ICボルドー66D	無機銅剤	50倍	-/-	
コサイドボルドー	無機銅剤	1,000倍	-/-	コサイドボルドー、コサイドD
コサイドDF	無機銅剤	1,000倍	-/-	F、Zボルドーはクレフノン200
Zボルドー	無機銅剤	500倍	-/-	倍を加用する。

## ニンニク春腐病の被害状況

